

施設管理番号 N * * * * F 0 0 0 1

部分記号

表一5.6.3 安定度調査表(盛土)の記入例

点検者 防災太郎
所属機関 OOO株式会社

要因	評点区分	盛土区分毎の配点				各要因の内の最高評点
		片切	面	盛土部	盛土部	
変状	構造的なクラック・開口亀裂あり	2	2	2	2	2
	のり面下部の洗掘あり	3	3	3	3	
	補修箇所多発あり	2	2	2	2	
	のり面の剥落あり	1	1	1	1	
基礎地盤	該当なし	0	0	0	0	(3)
	地すべり・クリーブ	2	2	2	2	
	軟弱地盤	1	1	1	1	
	崖錐	1	1	1	1	
盛土材	安定地盤	0	0	0	0	(2)
	砂質土	1	1	1	1	
	粘土質土	0	0	0	0	
	不明	0	0	0	0	
のり面	のり部が湿潤	6	6	6	6	(6)
	盛土のり面に湧水あり	6	6	6	6	
	のり面・自然斜面に湧水あり	6	6	6	6	
	唐切の土壌利用が薄層	2	2	2	2	
表面	山削戻部に削溝なし	4	4	4	4	(4)
	削溝・縦排水溝設置が不十分	4	4	4	4	
	該当なし	0	0	0	0	
	浮流内に土(砂)石流・湧水あり	3	3	3	3	
漂流	上流側に崩壊地あり	2	2	2	2	(2)
	常時湧水はないが、ガリがある	2	2	2	2	
	排水工若くは口部への真水が悪い	2	2	2	2	
	該当なし	0	0	0	0	
状況	排水工断面(φ、D)が不十分	6	6	6	6	(6)
	横断排水工設置加算点十分	3	3	3	3	
	盛土内部での排水工の屈曲・縮小あり	3	3	3	3	
	排水工の現水橋脚排水施設がない	6	6	6	6	
波河川	のり部が洪水・高潮時に浸水	2	2	2	2	(2)
	洪水・高潮時に排水工流末が冠水	2	2	2	2	
	のり部が常時冠水(軟弱地盤)	2	2	2	2	
	のり部が常時冠水	1	1	1	1	
影響	該当なし	0	0	0	0	(0)
	合計					

注1) ()は各項目の満点を示す。
該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。
不明な場合は中間的な値を採用する。
注2) 切盛境部が溪流横通部に隣接する場合には溪流横通部の列を用いて評価する。

* 印の項目は、溪流の現況の要因「常時流水はないがガリがある」と判断された場合にのみ評価を行う。

対策目的	得点区分	配点(α)	評点
変状対策	構造的な対策	(-4)	-4
	削溝工	±0	±0
	その他・なし	±0	±0
基礎地盤対策	地盤改良工・基礎の種類	(±0)	0
	その他・なし	±0	±0
のり面	地下水排水工・アンカー付きのり終工	-4	-4
	のり材工・表面被覆工	(-3)	-3
	のり面排水工・養生張り工	-2	-2
	削溝	-1	-1
	その他・なし	±0	±0
漂流対策	堰築・谷止め工	-5	-5
	上流・下流流路工	-2	-2
	上流流路工	-1	-1
	その他・なし	(±0)	±0
河川水・波浪対策	土留護壁・護岸工(空石積は除く)	-1	-1
	その他・なし	±0	±0
合計	(α)	-7	3点

※(A)が0点の場合対策工の効果補正は行わない

評点(評点の換算)	(B)→(C)
(B) < 0	0.1 2.3 4.5 6.7 8.9 10.1 11.2 13 14.15 > 16
(C) 0点	10点 20点 30点 40点 50点 60点 70点 80点 90点

項目	評点区分	配点	評点
被災履歴(D)	被災あり	(+30)	30
	被災なし	0	0
規程	盛土の全流出(通行止)	(+70)	70
	盛土の一部流出、半導(通行止)	+60	60
	表面浸食(数日片側通行)	+45	45
	軽微な損傷	+40	40
対策	(即日通行可)	(-70)	-70
	盛土の全改修、十分な対策	-30	-30
	修繕程度、応急対策	0	0
	被災計と同様の対策、対策なし	(0)	0
合計	(D)		30点

要因からの評点	(C)
20点	20点
履歴からの評点	(D)
30点	30点
(C)と(D)の内、大きい方	(E)=MAX(C, D)
30点	30点

盛土周辺の状況

1	地山傾斜地で集水地形上に造成された盛土
2	盛土のり部から測った盛土高が10m程度を上回る盛土
3	盛土のり部近辺に民家や避難施設が存在する盛土

横断排水管への集水地から流入する沢水の状態

4	降雨時に土砂が発生して横断排水管を閉塞する可能性がある
---	-----------------------------

総合評価

対応	判定
対策が必要と判断される。	○
防災カルテを作成し対応する。	○
特に新たな対応を必要としない。	

表-5.7.1 箇所別記録表(擁壁)記入例

施設管理番号	N	*	0	1	点検対象項目	擁壁	路線名	一般国道**号	位置目印	距離(自)	1	2	5	至	1	0	1	0	管理機関コード	1	0	6	1	5	東経	132° 10' 03.0"	北緯	34° 32' 48.0"	緊急輸送道路区分	有	無	迂回路	有	無	指定有	指定無	延長	40	m
事業区分	一般	有料	有	普通	一般国道(指定区間)	現道	所在地	00郡00町字**	位置目印	距離(自)	1	2	5	至	1	0	1	0	管理機関名	〇〇 地方整備局 〇〇 国道事務所																			
事前通行規制区間指定	有	(通行・特殊)	無	規制基準等	連続雨量200mm	時間雨量80mm	交通量	平日600台/12h	DID区間	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	該当(非該当)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)																																							
<p>断面図</p>															<p>位置図 (縮尺1/25,000)</p>																								
<p>正面図</p>															<p>被 災 歴 有 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明) (無) (H8年度以降)</p> <p>重複点検対象項目 対応施設管理番号:</p> <p>有 (無) 落石・崩壊・岩壁崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他</p> <p>平成8年度点検結果 評点(77点)総合評価(劣化)必要な対策が必要と判断され、防災カルテを作成し対応する(特に新たな対応を必要としない)(未着手)</p> <p>平成18年度点検結果 評点(30点)総合評価(劣化)必要な対策が必要と判断され、防災カルテを作成し対応する(特に新たな対応を必要としない)</p> <p>予想災害規模 細地の陥没200m程度</p> <p>工種: 排水溝の設置 その他: 締めめ注入工</p>																								
<p>特記事項</p> <p>点検実施:H **年**月**日 天候:(晴)(雪)(雨)</p> <p>調査方法: 地表踏査、目視点検</p> <p>所 見: 崖壁地形を呈す緩斜面に設けられた高さ4mの石積み擁壁、擁壁の上部に落石寸前の石や(評価理由) はらみ出しが認められる。擁壁の上にある畑地土が流出することにより石積みの裏に空層が生じたためと思われる。石積みの次層も認められるため、対策が必要と判断される。擁壁上部に排水溝を設けることが望ましい。</p>																																							

表一5.7.2 安定度調査表(擁壁)の記入例

施設管理番号	N	*	*	*	G	0	0	1	部分記号	
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	------	--

点検者	防災太郎
所属機関	〇〇〇株式会社

[擁壁周辺条件要因](A)

項目	要因	評点区分	配点	評点
地形	地すべり	地すべり地形ではない 地すべり地形だが適切な対策を講じている 地すべり地形だが対策がない、あるいは不明	(0) 5 30	0 (30)
	軟弱地盤	軟弱な地盤ではない 軟弱な地盤だが適切な対策を講じている 軟弱な地盤だが対策がない、あるいは不明	(0) 5 20	0 (20)
基礎地盤	基礎底面	良好な地盤に着床している 擁壁前面の基礎地盤の平場が狭い 崖地盤にある 基礎地盤が30°以上傾斜している	0 5 (10) 10	10 (10)
	支持力	平板載荷試験により支持力を確認している N値から支持力を推定している 支持力の確認を行っていない	0 2 (5)	5 (5)
水	地下水	付近に湧水は認められない 付近に湧水がある	(0) 10	0 (10)
	排水施設	基礎地盤の地下水が底面付近にある 周辺に有効な排水施設があり、雨水等が流入しない 周辺の排水施設が機能を発揮していない 排水施設が設置されており、雨水が自然流入する	0 20 (25) 25	25 (25)
立地	洗脚	前面に河川がない 洗脚防止工が無いが、基礎は常陸水位より高い 擁壁前面に有効な洗脚防止工が講じられている 洗脚防止工がない	(0) 5 5 10	0 (20)
		擁壁前面の洗脚防止工の効果がない	20	
合計			(A)	40点 但し50点を上限とする

[履歴](C)

項目	要因	評点区分	配点	評点
壁体の変状	変状なし		0	
	変状有	2年以上変状が進行していないことを確認 対策工事実施後変状の進行なし(2年未満) 未対策だが変状の進行なし(2年未満) 変状の停止が確認されず(含む、資料無し)	10 10 20 (50)	50 (50)
合計			(C)	50点 但し50点を上限とする

(D)=(A)+(B)+(C)

擁壁周辺条件要因 による評点	(A)	40点
擁壁本体要因 による評点	(B)	10点
履歴からの評点	(C)	50点
合計評点	(D)	100点

[総合評価]

対応	判定
対策が必要と判断される。	○
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対策を必要としない。	

注) ()は各項目の満点を示す。
 該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。
 不明な場合は中間的な値を採用する。

[擁壁本体要因](B)

項目	要因	評点区分	配点	評点
擁壁形式	石積 混合擁壁	安定した地山や切土のり面保護として用いている	5	
		良好な裏込めが施されている	5	
		積り高が10m以内	(10)	10 (20)
		空積	20	
無筋等 片持梁式	点検要領参照	5		
	点検要領参照	(0)	0	
合計			(B)	10点 但し20点を上限とする